

ミニストリー/宣教活動を全うする

聖書箇所：コロサイ人への手紙 4 章 7-18 節 （新改訳）

⁷ *Tychicus will tell you all the news about me. He is a dear brother, a faithful minister and fellow servant in the Lord.* ⁸ *I am sending him to you for the express purpose that you may know about our circumstances and that he may encourage your hearts.* ⁹ *He is coming with Onesimus, our faithful and dear brother, who is one of you. They will tell you everything that is happening here.*

¹⁰ *My fellow prisoner Aristarchus sends you his greetings, as does Mark, the cousin of Barnabas. (You have received instructions about him; if he comes to you, welcome him.)*

¹¹ *Jesus, who is called Justus, also sends greetings. These are the only Jews among my co-workers for the kingdom of God, and they have proved a comfort to me.* ¹² *Epaphras, who is one of you and a servant of Christ Jesus, sends greetings. He is always wrestling in prayer for you, that you may stand firm in all the will of God, mature and fully assured.* ¹³ *I vouch for him that he is working hard for you and for those at Laodicea and Hierapolis.* ¹⁴ *Our dear friend Luke, the doctor, and Demas send greetings.* ¹⁵ *Give my greetings to the brothers and sisters at Laodicea, and to Nympha and the church in her house.*

¹⁶ *After this letter has been read to you, see that it is also read in the church of the Laodiceans and that you in turn read the letter from Laodicea.* ¹⁷ *Tell Archippus: “See to it that you complete the ministry you have received in the Lord.”* ¹⁸ *I, Paul, write this greeting in my own hand. Remember my chains. Grace be with you.*

7 私の様子については、主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべであるテキコが、あなたがたに一部始終を知らせるでしょう。

8 私がテキコをあなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって心に励ましを受けるためにほかなりません。

9 また彼は、あなたがたの仲間のひとりで、忠実な愛する兄弟オネシモといっしょに行きます。このふたりが、こちらの様子をみな知らせてくれるでしょう。

10 私といっしょに囚人となっているアリストアルコが、あなたがたによろしくと言っています。バルナバのいとこであるマルコも同じです—この人については、もし彼があなたがたのところに行ったなら、歓迎するようにという指示をあなたがたは受けています。—

11 ユストと呼ばれるイエスもよろしくと言っています。割礼を受けた人では、この人たちだけが、神の国のために働く私の同労者です。また、彼らは私を激励する者となってくれました。

12 あなたがたの仲間のひとり、キリスト・イエスのしもべエパfrasが、あなたがたによろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。

13 私はあかしします。彼はあなたがたのために、またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦労しています。

14 愛する医者ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくと言っています。

15 どうか、ラオデキヤの兄弟たちに、またヌンパとその家にある教会に、よろしく言ってください。

16 この手紙があなたがたのところで読まれたなら、ラオデキヤ人の教会でも読まれるようにしてください。あなたがたのほうも、ラオデキヤから回って来る手紙を読んでください。

17 アルキポに、「主にあって受けた務めを、注意してよく果たすように」と言ってください。

18 パウロが自筆であいさつを送ります。私が牢につながれていることを覚えていてください。どうか、恵みがあなたがたとともにありますように。

Introduction

Today, we'll try to wrap up the series of messages from the Epistle to the Colossians, which started last year. Yes, it has taken us a long time to reach this point. It's mainly due to the special events and occasions we had to accommodate instead of rigidly following through the chapters of this book.

今日は、昨年から読んでいるコロサイの信徒への手紙からのメッセージのシリーズを、総括してみようと思います。しかし実に、コロサイの信徒への手紙を読むのに長い時間がかかってしまいました。なぜなら、この書に書かれている全ての章を読み終える代わりに、教会でのたくさんの特別イベントや行事を企画し対応しなければならなかったことが主な原因です。

If it's your first time to hear me preach today or if you've been here before but couldn't complete the series of said messages, I have good news for you. One, you may visit our church website and go to the Resources tab and look for the Sermons page [<https://www.minohchurch.org/all-sermons/>]. You'll find there all the past messages I've delivered from this book and more. Two, I can take you to a much simpler and shorter route. I'll summarize it for you...)

今日、初めて私の説教を聞く方、または、以前この教会に来たことはあるが、コロサイの信徒への手紙を読み終えていない方に、良いお知らせがあります。良いお知らせの一つは、本教会

のホームページにある「リソース」のタブから、「説教」と書かれているページ
[<https://www.minohchurch.org/all-sermons/>]を探してみてください。そこには、『コロサイの信徒への手紙』について私が伝えた過去の説教や他の関連メッセージが掲載されています。二つ目の良いお知らせは、実はもっと早く簡単な方法で『コロサイの信徒への手紙』を読むことができるのです。それは、私があなたのために要約するという早くて簡単な方法です。では、要約を始めていきましょう。

Paul wrote this epistle to a church that he'd never visited. He was in prison, probably in Rome, at the time. Paul was deeply concerned about the Colossian church's struggle with what's referred to as the Colossian heresy. There's this weird mix of beliefs being propagated among them. That is, Jesus is promoted as one to be believed in but with the acceptance of many Jewish ritual practices plus a variety of pagan elements put together.

パウロはこの手紙を、一度も訪れたことのない教会に宛てて書きました。彼は当時、おそらくローマで獄中にいたと思われます。パウロは、コロサイ教会がその当時、コロサイの異教と呼ばれる異端な教えに苦しんでいることを深く憂慮していました。コロサイの人々の間では、そのような奇妙な混合信仰が伝播していたのです。つまり、イエスは信じるべき存在として宣伝されてはいましたが、当時のコロサイの人々は、多くのユダヤ教の儀式的慣習に加え、さまざまな異教的要素を全て混ぜ合わせて受け入れていたのです。

What the apostle Paul wanted to tell them was simply this: ***Jesus is enough for salvation.*** You don't need to add anything to Jesus because Jesus is the best that you can ever have. If you have Jesus, you have everything you need. He warned them to be careful of people who make light of Jesus, who don't capture the mind-blowing reality of who Jesus really is.

しかし、使徒パウロがコロサイの人々に伝えたかったことは、『**救いはイエス様だけで十分である**』ということだけだったのです。イエス様はあなたが手にすることのできる最高の存在です。だから、イエス様以外のものを何も加える必要はないのです。イエス様さえいれば、必要なものはすべて揃っているのです。ですから、パウロが伝えたかったことは、イエス様を軽んじる人や、イエス様の本当の姿を理解しない人には注意しなさいということだったのです。

So that's basically what St. Paul has written to the Colossian Christians.// Now, let's take a last dive into the rest of Paul's Epistle to the Colossian church. Here are some lessons to consider as we ***Complete the Ministry:***

ですから、コロサイの信徒への手紙には、聖パウロがコロサイのクリスチャン達に書いた手紙の基本的な内容が書かれているのです。// それでは次に、パウロが書いたコロサイ教会への手紙の内容の残りを、これから見てみましょう。そこには、私たちが**聖職を全うする**ために考え

るべき教訓がいくつか書かれています。まず、その一つ目は、『**数には力がある**』という教えです。

I. There's strength in numbers.

I. 数には力がある

Dr. John MacArthur, a pastor and Bible teacher, calls this section of the book a “*verbal group photograph*,” which is an appropriate description. If Paul were to have a picture with his team, you’ll have a good idea of who were with him at this time. He wasn’t alone; there’s several of them.

牧師であり聖書教師であるジョン・マッカーサー博士は、コロサイの信徒への手紙に書かれているこの聖書箇所を、『言葉の集合写真』と呼んでいるのですが、これは適切な表現だと思います。なぜなら、当時のパウロが自分の同志たちと一緒に写真を撮ったとしたら、この時、誰と一緒にいたのかがよくわかります。そこには、パウロ一人ではなく何人もの他の人々がいたことがわかります。

Here Paul includes a greeting from and a mention about members of his ministry team. He devotes a good portion of the epistle to naming messengers, passing on greetings, and giving final instructions. They were Paul’s supporters. Some of them ministered together with him. Others were essential because they were able to come and encourage him in this difficult time while he was in his own words, “*in chains*” (Col. 4:3). After all, he was a prisoner for the sake of the gospel of Christ!

またこの箇所では、パウロの奉仕グループのメンバーからの挨拶と、メンバーについて書かれています。パウロはこの手紙のかなりの部分を、使者の名前を挙げ、挨拶を伝え、最後の指示を書くことに費やしています。それらの人々はパウロの支援者でした。ある者は、パウロと共に働きました。他の人々は、パウロが「鎖につながれて」（コリント 4:3）いる苦難な時に、パウロを励ましました。彼らは不可欠な存在だったのです。結局のところ、パウロはキリストの福音のために囚人となったのです。

Here we are given an access behind the scenes of Paul’s ministry. The key point we can get from this is that Paul could not do this on his own. Paul was not a lone ranger. He neither attempted nor carried out the enormous responsibilities of ministry on his own. He believed that there’s strength in numbers.

この箇所では、パウロの働きの舞台裏を知ることができます。ここから得られる重要なポイントは、パウロは自分一人では、このような仕業を行うことはできなかったということです。パ

ウロはローン・レンジャーではありませんでした。パウロは、ミニストリーという奉仕活動に対する大きな責任を自分ひとりで果たそうとはしませんでしたし、遂行しようとしませんでした。パウロは人々が集まれば数の力が生まれると信じていたのです。

There is a very old and famous saying, *“behind every successful man, there stands a woman”*! A woman, not necessarily a wife, could be a mother or perhaps a sister as well. It is said that a man can be successful with the best wishes and hard work of the *‘woman behind’*.

「成功した男の陰には女がいる」という有名な言葉があります。女性とは、必ずしも妻のことを指していなくても、母親であったり、姉妹のことを指していたりします。女性たちの願いと努力によって、男は成功することができると言われています。

In the case of the apostle Paul, he indicated that he was single while he was doing missionary work. But, what we do know is that for every Paul or Peter or John in the Bible, there are others behind them. These are the people who are serving in the background, the *“unsung heroes”* of the early church.

使徒パウロの場合は、宣教活動をしながら彼が独身であることを明かしました。しかし、私たちが分かることは、聖書に登場するパウロやペテロやヨハネには、その背後に女性の助けがなかったとしても他の人々がいたということです。そのように彼らを助けた人たちとは、初代教会の「縁の下の力持ち」として、陰で奉仕している人たちでした。

APPLICATION: Ministry is a team effort. For those who are watching the livestreaming version of the service, you mostly see me and a few others on your screen. But, what you don't see are the many others serving the Lord with me before, during and after every service takes place. This ministry is sustained with the number of people serving God through the church.

宣教活動や奉仕活動とはチームワークで行われています。ライブストリーミングで礼拝をご覧になっている皆さんには、私と他の数名しか画面に映っていません。しかし、いつも礼拝が行われる前や、礼拝中、礼拝後に私と一緒に主に仕えている多くの他の人たちのことは、皆さんには見えていません。このような奉仕活動は、教会を通して神に仕えるたくさんの人々、すなわち人々の『数の力』によって支えられているのです。

では次の、私たちが聖職を全うするための二つ目の教えとは、『**私たちは互いを必要としている**』ということです。

II. We need each other.

II. 私たちは互いを必要としている

Pastor John Piper made this comment concerning Paul: *“Amazing … This personal connectedness is rare. From the most influential Christian leader in the first century — a man at the top — we see a relational connectedness that fills us with wonder … Here is a man who did not let his authority, or his being at the top, choke off the affections that he felt for these friends. You cannot help but feel … that these friends were precious to Paul. This was not politics. This was personal affection and love.”*

米国の神学者であるジョン・パイパー牧師はパウロについて次のように語っています。「驚くべきことです。1 世紀で最も影響力のある、つまりキリスト教指導者のトップに立つパウロのような人物から、私たちは驚かされるような人間関係のつながりを見ることができます。パウロは、自分の権威や自分がトップであるにも関わらず、自分の友人たちに感じる愛情を押し殺したり隠したりすることは決してありませんでした。私たちは、この友人たちがパウロにとって大切な存在であることを感じずにはいられないでしょう。それは政治的な理由でもなく、友人に対する個人的な愛情であり、愛だったのです。

God did not form the church to function with a single alpha leader. He tells us that the church is like a body, giving each member his own gift in order to properly fulfill his own function (See Romans 12:3~8; 1 Corinthians 12; Ephesians 4:1~16) . We belong to each other. We need each other.

神様は教会を一人のリーダーが機能させるように作られたのではありません。教会は人の体のようなもので、各メンバーが自分の機能を適切に果たせるように、私たち一人一人にそれぞれの賜物を神は与えると教えてくれています（ローマ 12：3～8、1 コリント 12、エペソ 4：1～16 参照）。ですから、私たちは互いに属し合っているのです。私たちはお互いを必要としているのです。そのことが、ローマ人への手紙 12 章 4-6 節に書かれています。

Romans 12:4~6a - ⁴ For just as each of us has **one body with many members**, and these members do not all have the same function,⁵ so in Christ we, though many, form one body, and each member belongs to all the others. ⁶ **We have different gifts**, according to the grace given to each of us…

ローマ人への手紙 12 章 4-6

4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、
5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。

Even “*Paul the Great*” needed help. He needed prayer warriors to help him carry the burden of praying for churches and individuals spread across the Roman Empire. He himself needed people to come alongside him, praying for and encouraging him when times were tough (Colossians 4:3~4). All of us need to be sharpened by other believers around us. We need to be humble and teachable so that we can be supported and helped by others. We also need to be willing to offer support and encouragement to others to sharpen those who may grow dull otherwise. We need each other to complete God’s call & ministry.

「偉大なるパウロ」でさえも助けを必要としていました。パウロは、ローマ帝国全域に広がる教会と個人のために祈るという任務のために、祈祷師が必要だったのです。パウロ自身、困難を感じた時には、自分の為に祈ってくれたり励ましてくれる人々が必要でした(コロサイ 4:3~4)。私たちは皆、周りの信者たちから切磋琢磨させられる必要があるのです。私たち自身が謙虚で教え上手になれば、他の人たちが支えてくれて助けてくれようになります。また、鈍くなってしまった人の感覚を研ぎ澄ませるためには、その人々を喜んで助けたり励ましたりする必要があるのです。私たちは、神の召命と宣教活動を全うするために、お互いを必要としているのです。

次に、私たちが聖職を全うするための最後の教訓は、『**敬意を払うべき相手には敬意を払う**』という教えです。

III. Give honor to whom honor is due.

III. 敬意を払うべき相手には敬意を払う

These were the eight (8) men who took a serious risk to associate with a “*prisoner*” like Paul. There was no monetary benefit and there would be little recognition. But they sacrificed their own time and energy to help Paul.

この箇所に書かれている 8 人は、パウロのような「囚人」と付き合うという重大なリスクを背負った人たちでした。そこには、金銭的な利益もなく、何の見返りもありませんでした。しかし、その 8 人は、自らの時間と労力を犠牲にしてパウロを助けました。

A. Men who served as messengers – verses 7~9

A. メッセンジャーとして仕えた人々 - 7 節~9 節

では次に、『**メッセンジャーとして仕えた人々**』のことが、7 節~9 節に書かれているので、見ていきましょう。

1. Tychicus – He was mentioned five times in the NT. Paul described him as “*a dear brother, a faithful minister and fellow servant in the Lord*” (v.7). He was tasked to deliver Paul’s letter to the Colossians, to the Ephesians (Ephesians 6:21) and probably to Philemon.

1. テキコー彼の名前は新約聖書で5回登場しています。パウロはテキコについて「**愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべ**」(7節)と表現しています。彼はパウロのコロサイ人への手紙、エペソ人への手紙(エペソ6:21)、そしておそらくピレモンへの手紙を届けるように命じられていたと思われます。

2. Onesimus – He was a runaway slave and the subject of Paul’s letter to Philemon. He is from Colosse who met Paul and became a Christian. Paul then sent him back to his hometown and to his former master, Philemon.

2. オネシモ 一家出した奴隷で、パウロのピレモンへの手紙にも彼のことが書かれています。オネシモはコロッセ出身で、パウロと出会ってクリスチャンになりました。その後、パウロはオネシモを故郷にいる元の主人であるピレモンのもとへ送り返した。

Tychichus and Onesimus were Paul’s messengers to the Colossians to report about their circumstances and to encourage them.

テキコとオネシモは、パウロの使者としてコロサイの人々にパウロたちの状況を報告し、人々を励ましたのでした。その様子が、7－9節に書かれています。

⁷ *Tychicus will tell you all the news about me...* ⁸ *I am sending him to you for the express purpose that you may know about our circumstances and that he may encourage your hearts.* ⁹ *He is coming with Onesimus, ... They will tell you everything that is happening here.*

7 私の様子については、主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべであるテキコが、あなたがたに一部始終を知らせるでしょう。

8 私がテキコをあなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって心に励ましを受けるためにほかなりません。

9 また彼は、あなたがたの仲間のひとりで、忠実な愛する兄弟オネシモといっしょに行きます。このふたりが、こちらの様子をみな知らせてくれるでしょう。

B. The men who served as comforters – verses 10~11

B. 慰め役となった人々 - 10節~11節

そしてまた、10-11節には『**慰め役となった人々**』のことが書かれています。

3. Aristarchus – He was taken by the mob in Acts 19:29. Then, he went with Paul to Jerusalem in Acts 20:4. He traveled to Rome with Paul in Acts 27:4. Aristarchus accompanied Paul during all of these difficult times and was therefore a prisoner by choice. It seems he could have left at any time, but chose to stay with Paul and share in his sufferings for the sake of encouraging and supporting Paul. This speaks very highly of his character and commitment to the cause of Christ.

3. アリスタルコ—使徒 19 章 29 節で、アリスタルコは暴徒に捕らえられました。それから、彼は使徒 20 章 4 節でパウロと一緒にエルサレムに行ったのでした。使徒言行録 27 章 4 節では、アリスタルコはパウロと一緒にローマに行きました。アリスタルコは、これらの困難な時に常にパウロと共にいたので、パウロが投獄されると、自ら望んで囚人にもなりました。アリスタルコはいつでもパウロと離れることができたのに、彼はパウロを励まし、支えるために、パウロと一緒にいて、パウロの苦しみを共有することを選んだようです。このことは、アリスタルコの人格への評価を高め、キリストの大義に対するアリスタルコの献身を高く評価する結果となりました。

4. Mark – The writer of the second Gospel, he was the cousin (nephew) of Barnabas. The church in Jerusalem met in his mother's house (Acts 12:12). He faltered in the early years. He deserted Paul during his first missionary journey. He was the main reason why Paul and Barnabas parted ways (Ac 15:36~41). But eventually proved *"helpful"* to Paul for service (2Ti 4:11). Even now, he is included with those who Paul said, *"proved a comfort to me"* (v.11).

4. マルコ—第二福音書の著者で、バルナバのいとこ（甥）でした。エルサレムの教会はマルコの母の家で開かれました（使徒 12：12）。マルコは初期にすでに挫折し、第一次伝道旅行中にマルコはパウロを見捨てました。パウロとバルナバの別れの主な理由はマルコでした (Ac 15:36~41)。しかし、最終的にはパウロの奉仕のために「役に立つ」ことをマルコは証明しました (2Ti 4:11)。11 節に書かれているように、今でもパウロが「私の慰めになった」(11 節)と言われる人たちの中に含まれているのがマルコです。

God can change sinners. We can have victory even if we have failed in the past. Do not live in your past mistakes, but push forward to a victorious future. Paul commands the Colossians to welcome Mark. Would you want to welcome Mark if you knew what he had done? We should be forgiving and give second chances to others. Do not be quick to judge or treat people harshly.

神様は罪人を変えることができます。たとえ過去に失敗しても、私たちは勝利を得ることができます。過去の失敗の中に生きるのではなく、未来の勝利に向かって突き進みましょう。パウロはコロサイの人々に、マルコを歓迎するように命じています。マルコが何をしたかを知ったら、あなたはマルコを歓迎したいと思うでしょうか？私たちは寛容になるべきであり、他の人にもう一度セカンドチャンスを与えるべきなのです。すぐに人を裁いたり、厳しく扱ったりしてはいけません。

5. Justus – One of very few fellow workers who were Jewish. although in general most did not believe a few did and these were a great encouragement to Paul.

5. ユスト—数少ないユダヤ人労働者の一人。当時は、ほとんどのユダヤ人がキリストを信じていなかったが、中には数人の信者がおり、それらの数人の信者はパウロの大きな励みとなっていました。

¹⁰ My fellow prisoner Aristarchus sends you his greetings, as does Mark, the cousin of Barnabas. (You have received instructions about him; if he comes to you, welcome him.)

¹¹ Jesus, who is called Justus, also sends greetings. These are the only Jews among my co-workers for the kingdom of God, and they have proved a comfort to me.

10 私といっしょに囚人となっているアリストアルコが、あなたがたによろしくと言っています。バルナバのいとこであるマルコも同じです—この人については、もし彼があなたがたのところに行ったなら、歓迎するようにという指示をあなたがたは受けています。

11 ユストと呼ばれるイエスもよろしくと言っています。割礼を受けた人では、この人たちだけが、神の国のために働く私の同労者です。また、彼らは私を激励する者となってくれました。

C. The man who was devoted to prayer – verse 12~13

C. 祈りに専念していた人-12~13 節

また、12~13 節では、『**祈りに専念していた人**』について書かれています。

6. Epaphras – Probable founder of the Colossian church.

6. エパフラス—コロサイ教会の創立者と思われる。

Paul wrote that: *⁴² Epaphras, who is one of you and a servant of Christ Jesus, sends greetings. He is always wrestling in prayer for you, that you may stand firm in all the will of God, mature and fully assured. ¹³ I vouch for him that he is working hard for you and for those at Laodicea and Hierapolis.*

パウロは次のように書いています。

12 あなたがたの仲間のひとり、キリスト・イエスのしもべエパfrasが、あなたがたによろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。

13 私はあかしします。彼はあなたがたのために、またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦勞しています。

Just as one does not have to be on the court to contribute to a team's success, one does not have to be present to be a blessing to others! Prayers are a powerful means in doing the work of ministry.

On a bittersweet note, we now consider...

チームの成功のためには、試合のコートに必ずしもあなたの存在が必要というわけではないのと同じように、他者への祝福のために、必ずしもあなたの存在が必要というわけではないのです。祈りは、宣教の仕事をするための強力な手段なのです。

祈りの力のことは、私たちへの戒めとして、よく考える必要があると思います。

D. The men of contrast – verse 14

¹⁴ *Our dear friend Luke, the doctor, and Demas send greetings.*

D. 対照的な人たち（14 節）

そして、『**対照的な人たち**』のことも 14 節に書かれています。

14 愛する医者ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくと言っています。

7. Luke – He was Paul's personal doctor and therefore, often traveled with him. Hence, Luke was the first known medical missionary. He also wrote the Gospel of Luke and the Book of Acts. Luke served God wholeheartedly with the talent he had. How can you use your special talents for God?

7. ルカ – パウロの個人的な医師であったので、しばしばパウロと一緒に旅をしました。従って、ルカは最初の医療宣教師として知られています。彼はまた、ルカによる福音書と使徒言行録を書きました。ルカは、自分の持っている才能を生かして、心から神様に仕えました。あなたは、自分の特別な才能をどのように神様のために使うことができるのでしょうか？

8. Demas – Sadly, Demas deserted Paul because of his *“love for the world”* (2 Timothy 4:9~10). This shows us that not everyone who starts well finishes well. Ministering for the Lord does not make us immune to temptations.

8. デマス—悲しいことに、デマスは「世に対する愛」のためにパウロを見捨てました（2 テモテ 4:9~10）。このことは、良いスタートを切った人が皆、良い終わり方をするわけではないことを示しています。主のために奉仕することは、誘惑と無縁になるということではありません。

Demas is a stark contrast with Mark. Mark failed, but repented and turned back to a faithful life of service to the Lord. Demas started well, but turned away never to be seen again.

デマスはマルコと対照的な人物です。マルコは失敗しましたが、悔い改めて、主に仕える忠実な人生に立ち戻りました。デマスは、最初は良かったのですが、その後、二度と姿を現すことなく去っていきました。

What temptation may be your potential cause of downfall? When you fail, will you be like Mark or like Demas?

どのような誘惑があなたを陥れる可能性があるのでしょうか？あなたが誘惑に負けて失敗したとき、マルコのようになるのでしょうか、それともデマスのようになるのでしょうか？

Conclusion/Application

What can we learn from these men? Which one do you hope to be more like? If you were with Paul at this time, what would he say about you?

最後に、この人たちから何を学ぶことができるのでしょうか？あなたなら、どのような人になりたいと思いますか？もしあなたがこの時パウロと一緒にいたとしたら、パウロはあなたのことを何と言うでしょう？

Demas serves as a sober reminder of the need to remain steadfast to the end.

1. デマスは最後まで、堅忍不拔（けんにとんぷばつ）でなければならないということ、つまり、つらいことに負けず、がまん強く心を動かさない、ということを冷静に教えてくれる存在なのです。

The others in this passage remind us that the spread of the gospel during the 1st century was not accomplished through the efforts of great men like Paul and the twelve (12) apostles alone. It was greatly assisted by humble men and women willing to serve behind the scenes. They served as messengers, comforters, prayer warriors, and servants to those in positions of greater influence than themselves (vv.7~14). They opened their hearts and their homes to the service of the church, like Nympha in v.15.

この箇所は、1世紀の福音の伝播が、パウロや12人の使徒のような偉大な人々の努力だけで達成されたのではないことを思い起こさせてくれます。パウロや12使徒のような偉い人たちだけで福音が広まったのではなく、裏方に徹する謙虚な人たちが大きな助けとなったということが書かれているのです。彼らは自分より大きな影響力を持つ立場の人々の使者、慰め手、祈禱師、奉仕者として仕えました（7-14節）。15節に登場するヌンパのように、彼らは教会のために心を開き、家庭を開放したのです。

If the gospel is to spread today, there is also a need for brothers and sisters like them. Are we willing to do whatever we can in service to the Lord, whether it be great or small?

今日（こんにち）、福音が広がっていくためには、彼らのような兄弟姉妹も必要なのです。私たちは、大気なことでも小さなことでも、主への奉仕のためにできることは何でもしていこうとする気持ちがあるでしょうか？

Let Paul's closing remarks to a man named Archippus serve as an admonition to us as well: ***"See to it that you complete the ministry you have received in the Lord"*** (v.17).

パウロがアルキポという人物に語った最後の言葉が、私たちに対する戒めにもなっていると思いましょう。「主にあって受けた務めを、注意してよく果たすように」（17節）。

Whatever our calling, whatever our ability, let us be faithful to the Lord!

私たちの使命が何であれ、能力が何であれ、私たちは、主に対して忠実でありましょう。